授業科目	看護学概論	担当教員	専任教員＊	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		4月～

目的：看護の概念･理念および看護の変遷を学び、看護の対象を正しく捉え、看護の本質を理解する。

目標：1）人間のライフサイクルにおける健康の意義を理解する。
2）看護の対象である人間を、全人的に理解する。
3）看護の機能と役割を学び、看護活動の概要を理解する。
4）保健･医療･福祉における看護の役割を理解する。
5）専門職業人としての態度を身につけ、倫理に基づいた行動ができる。
6）看護の変遷を理解し、今後の看護の課題と方向性について考えることができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護の本質１	看護の定義と特性	講義	専任教員
2	看護の本質２	看護の変遷　看護の役割と機能	講義	
3	看護の対象１	統合体としての人間	講義	
4	看護の対象２	生活者としての人間の理解 健康障害を持つ対象の理解　　ストレスと適応	講義	
5	人間にとっての健康１	健康のとらえ方　　ライフサイクルと健康	講義	
6	看護における倫理１	看護倫理　倫理的課題と対応	講義	
7	人間にとっての健康２	健康と病気に影響する関連要因１	講義	
8	人間にとっての健康３	健康と病気に影響する関連要因２	講義	
9	看護における倫理２	看護実践における法的側面 医療事故における法的責任	講義	
10	看護の理論と実践１	看護実践のための理論的根拠１	講義	
11	看護の理論と実践２	看護実践のための理論的根拠２	講義	
12	看護提供のしくみ１	看護サービスの提供の場　看護の継続性	講義	
13	看護提供のしくみ２	看護のマネジメント　看護をめぐる制度と政策	講義	
14	看護の活動領域	災害看護、国際化と看護	講義	
15	試験とまとめ			

評価方法	筆記試験　80点 グループワークなどを総合的に評価、レポート　20点
参考文献と資料	テキスト：看護学概論　基礎看護学①　（メディカ出版） 参考文献：看護覚え書　（現代社） 新改訂　実践に生かす看護理論１９　（サイオ出版） 看護六法　（新日本法規） よくわかる看護職の倫理綱領　（照林社）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	看護論セミナー	担当教員	専任教員　＊	単位数	1	時期	１年次 ５月～
				時間数	15		

目的：対象の基本的欲求を学び、人間を統合体として理解できる。

目標：１）ヴァージニア・ヘンダーソンの看護の概念と概念枠組みが理解できる。

２）「基本的看護の構成要素」の充足した状態が理解できる。

３）人間を統合体として理解できる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護理論とは看護の独自の機能・基本的看護ケア	看護理論とは、看護理論を学ぶ意義 看護の独自の機能・基本的看護ケア グループワークの進め方	講義	専任教員
2	看護の基本的構成要素の理解１	呼吸・飲食・排泄	講義	
3	看護の基本的構成要素の理解２	姿勢・睡眠・衣類	講義	
4	看護の基本的構成要素の理解３	体温・清潔・環境・コミュニケーション	講義	
5	看護の基本的構成要素の理解４	信仰・達成感・レクリエーション・学習	講義	
6	看護の基本的構成要素の理解５	基本的看護の構成要素14項目の発表	講義	
7	統合体としての人間理解１	１４の基本的欲求の統合	講義	
8	統合体としての人間理解２ （1ｈ）	統合体としての人間理解の発表	講義	

評価方法	グループワークなどを総合的に評価、記録物、レポート
参考文献と資料	テキスト：看護の基本となるもの　（日本看護協会出版会） 看護覚え書　（現代社） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ）
事前準備や受講要件等	看護学概論履修

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅰ	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	1年次 4月～
				時間数	30		

目的：看護技術の構造を明らかにし、看護場面に共通する基本的技術を習得する。
目標：１）相互作用としてのコミュニケーションの特徴と重要性がわかる。
２）効果的なコミュニケーションのための知識・技術・態度を理解する。
３）望ましい対人関係について理解し、自分の対人関係を振り返ることができる。
４）感染予防策の基礎的知識を学び、スタンダードプリコーション（標準的感染予防策）が習得できる。

回数	学習課題		内　　容	方　　法	担当教員
1	看護技術とは		看護技術の特徴・範囲 看護技術を適切に実践するための要素 看護技術の発展と修得	講義	専任教員
2	コミュニケーションの技術	コミュニュケーションとは	コミュニケーションとは 対人関係プロセスとしての看護 看護とコミュニケーション	講義	
3		コミュニュケーションに影響する要因	文化とコミュニケーション 人間関係と空間	講義	
4		効果的なコミュニケーション	医療における信頼関係とコミュニケーション プロセスレコード	講義	
5		看護場面でのコミュニケーション1	技法を使ったコミュニケーション 自己紹介・同意書のとり方	演習	
6		看護場面でのコミュニケーション2	療養環境に応じたコミュニケーション	演習	
7		看護場面でのコミュニケーション3	患者の思いに触れるコミュニケーション	演習	
8		看護場面でのコミュニケーション4	実習後のコミュニュケーションの振り返り	講義	
9		コミュニケーション障害への対応	コミュニケーション障害のある人の特徴と対応	講義	
10	感染予防の技術	感染予防の基本	感染成立の仕組み・感染予防策の基本的な考え方	講義	専任教員
11		感染源対策	看護師の役割と責務 消毒・滅菌の意義と方法 感染予防のための対策	講義	
12		感染防止の実際１	手洗い・滅菌手袋の取り扱い・ガウンテクニック	演習	
13		感染防止の実際２	滅菌物の取り扱い・無菌操作	演習	
14		感染防止の実際３	滅菌物の取り扱い・無菌操作	演習	
15	技術チェック（１ｈ）		無菌操作の技術チェック	演習	
16	試験　（１ｈ）				

評価方法	筆記試験 ＊筆記試験とは別に、無菌操作の技術チェックを実施
参考文献と資料	テキスト： 回数1～14　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 回数3～8　基礎からステップアップ　看護コミュニケーション（へるす出版） 参考文献：　基礎看護技術　（医学書院）
事前準備や受講要件等	各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 自己練習をした上で技術チェックに臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅱ	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	1年次 ６月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術を習得する。

目標：１）看護記録の意義と記録の基礎を理解し、POSで記録を書くことができる。

２）バイタルサインの意義について学び、正確な観察と測定の方法を習得する。

３）フィジカルアセスメントの基本技術を学び、習得する。

回数		学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	看護記録	看護記録と報告	看護記録の目的と意義 看護記録に関する法的規定 報告の目的と重要性	講義	専任教員
2	生体機能管理技術	バイタルサインの観察１	バイタルサインの意義 １）体温　２）呼吸　３）脈拍・心拍	講義	専任教員
3		バイタルサインの測定１	体温・脈拍・呼吸の測定	演習	
4		バイタルサインの観察２	４）血圧　５）意識レベル	講義	
5		バイタルサインの測定２	血圧の測定	演習	
6		バイタルサインの測定３	事例を考えたバイタルサインの測定	演習	
7		フィジカルアセスメントの基本	フィジカルアセスメントの意義、身体各部の計測 アセスメントテクニック(問診、視診・聴診・触診・打診)	講義	専任教員
8		フィジカルアセスメントの実際１	呼吸器系のアセスメント	講義・演習	
9		フィジカルアセスメントの実際２	循環器系のアセスメント	講義・演習	
10		フィジカルアセスメントの実際３	消化器系・のアセスメント	講義・演習	
11		フィジカルアセスメントの実際４	中枢神経系のアセスメント	講義・演習	
12		フィジカルアセスメントの実際５	運動器系・感覚器系のアセスメント	講義・演習	
13		観察・報告の実際１	事例に基づいた観察・報告の実際１	演習	
14		観察・報告の実際２	事例に基づいた観察・報告の実際２	演習	
15	技術チェック（１ｈ）		血圧測定の技術チェック	演習	
16	試験（１ｈ）				

評価方法	筆記試験 ＊筆記試験とは別に、血圧測定の技術チェックを実施
参考文献と資料	テキスト： 回数1～6　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院） 回数7～14　フィジカルアセスメントガイドブック　（医学書院） フィジカルアセスメントワークブック　（医学書院） 基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。 呼吸器系の解剖生理　・循環器系の解剖生理　・消化器系の解剖生理 感覚器系の解剖生理　・運動器系の解剖生理　・中枢神経系の解剖生理 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 自己練習した上で技術チェックに臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅲ	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	１年次 ４月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。

目標：１）安楽かつ快適さを確保する技術を理解する。
２）実習で起こりうるヒヤリ・ハットの発生要因を理解し、防止策の基本を理解する。
３）看護における環境調整の意義と環境条件を理解する。
４）ベッドメーキングに必要な基本的技術を習得する。
５）患者の状態に合わせた療養環境を整える方法を習得する。
６）安全･安楽なリネン交換技術を習得する。

回数		学習課題	内　　容	方法	担当教員
1	安全・安楽の技術	安全・安楽を守るための技術	安全・安楽の意義と阻害する因子 看護技術に必要な安全性と安楽性	講義	専任教員
2		安全管理	ヒヤリハットとは	講義	
3		安楽を確保する方法	リラクセーション 痛みの軽減　感覚への刺激	講義	
4	環境調整の技術	環境の調整	生活環境と健康に関する看護の意義	講義	専任教員
5		患者を取り巻く生活環境１	環境の諸要素とその調整	講義	
6		患者を取り巻く生活環境２	病室と病床の環境調整	講義	
7		ベッドメーキングの実際１	必要物品と置き方、リネン類の畳み方 オープンベッド１	演習	
8		ベッドメーキングの実際２	オープンベッド２	演習	
9		ベッドメーキングのまとめと技術チェック	ベッドメーキングのまとめと技術チェック	演習	
10		療養環境を整えるための援助１	療養環境を整えるための援助の実際	演習	
11		療養環境を整えるための援助２	療養環境を整えるための援助の実際	演習	
12		リネン交換の実際１	リネン交換１　リネン交換時の留意事項	演習	
13		リネン交換の実際２	リネン交換２	演習	
14		リネン交換の実際３	リネン交換３	演習	
15	技術チェック（１ｈ）		リネン交換の技術チェック	演習	
16	試験（１ｈ）				

評価方法	筆記試験 ＊筆記試験とは別に、ベッドメーキング・リネン交換の技術チェックを実施
参考文献と資料	テキスト： 回数 1、4～8、12～14　基礎看護技術　（医学書院） 回数 1～3、10～11　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 回数　4～5　看護覚え書　（現代社） 回数　4～8　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	講義開始までに「看護覚え書：現代社」を読み、講義に臨む。 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 基礎看護技術「V1ベッドメーキング」　基礎看護技術「V11リネンチェンジ」 自己練習をした上で技術チェックに臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅳ	担当教員	専任教員 ＊ 外部講師	単位数	1	時期	1年次 6月～
				時間数	30		

目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。

目標：１）ボディメカニクスの原理に基づいた体位変換の技術の基本を習得する。

２）移動・移送技術の基礎を習得する。

３）清潔の生理的・精神的・社会的意義が理解でき、清潔の援助に必要な基本的技術を習得する。

回数		学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	活動と休息の援助技術	睡眠と休息	生活のリズムと活動・運動 睡眠と休息	講義	専任教員
2		姿勢と動作	姿勢と動作 安楽な体位 体位変換と移動	講義	
3		移動・移送の援助１	体位変換の方法	演習	
4		移動・移送の援助２	ベッド上移動動作	演習	
5		移動・移送の援助３	安楽な体位を保つ方法の実際１ 移動・移送の実際	演習	
6		移動・移送の援助４ （１ｈ）	安楽な体位を保つ方法の実際２	演習	
7	清潔・衣生活の援助技術	清潔の意義と援助 臥床患者の清潔の援助方法１	清潔の意義 清潔の援助に必要な知識 １）衣生活・整容　２）寝衣交換　３）全身清拭	講義	専任教員
8		臥床患者の清潔の援助方法２	１）入浴　　２)足浴 ３）洗髪	講義	
9		臥床患者の清潔の援助方法の実際１	足浴	演習	
10		臥床患者の清潔の援助方法の実際２	全身清拭　＋　寝衣交換	演習	
11		臥床患者の清潔の援助方法の実際３	全身清拭　＋　寝衣交換	演習	
12		臥床患者の清潔の援助方法の実際４	洗髪	演習	
13		臥床患者の清潔の援助方法の実際５	洗髪	演習	
14		臥床患者の清潔の援助方法の実際６	口腔ケア　・　歯磨き	講義・演習	外部講師
15		臥床患者の清潔の援助方法の実際７	口腔ケア　・　歯磨き	演習	
16	試験（１ｈ）				

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　(ﾒﾃﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社) 基礎看護技術　(医学書院)
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。 皮膚・毛髪の解剖生理 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 基礎看護技術「移動・移送の援助」 基礎看護技術「全身清拭」「寝衣交換」「足浴」「洗髪」「口腔ケア」

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅴ	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		9月～

目的：看護場面に共通する基本的技術と、対象に必要な基本的日常生活援助技術を習得する。

目標：１）栄養と食事に関する基礎的知識を学び、患者の状態に適した食事介助の方法について理解し実施できる。

２）経管栄養法を受けている患者の観察と流動食の注入ができる。

３）排泄とは何かを学び、排泄の意義と重要性について理解する。

４）対象に必要な排泄援助技術を、原理・原則をふまえ、安全・安楽に実施できる。

回数		学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	食生活と栄養摂取の援助技術	食事の意義と栄養	食事の意義 栄養と食事に関する基礎的知識	講義	専任教員
2		病人への食事 経口摂取の方法	食事と健康　　食事療法 経口摂取への援助の実際	講義	
3		非経口的栄養法	経管・経腸栄養法・経静脈栄養法 経鼻胃チューブによる栄養摂取の実際	講義	
4		経口摂取の実際１	食事摂取の自立困難な患者への援助	演習	
5		経口摂取の実際２ 経管栄養法の実際	嚥下困難にて経口的に食事がとれない患者への援助 経管栄養法	演習	
6	排泄の援助技術	排泄に関する基礎知識	排泄の意義、メカニズム 排尿・排便の異常と障害	講義	専任教員
7		排泄への基本的援助	排泄の援助の必要な対象　尿・便器使用時の援助 自然排尿、自然排便への援助	講義	
8		便器・尿器による排泄の実際１	床上排泄（便器・尿器）	演習	
9		便器・尿器による排泄の実際２（１ｈ）	オムツを用いての排泄の援助１	演習	
10		便器・尿器による排泄の実際３	オムツを用いての排泄の援助２	演習	
11		排泄障害のある人への援助 排便障害時の援助	排便障害とは 浣腸・摘便	講義	
12		排便障害時援助の実際	グリセリン浣腸	演習	
13		排泄障害のある人への援助 排尿障害時の援助	排尿障害とは 導尿・膀胱留置カテーテル	講義	
14		排尿障害時の援助１	導尿の実際１	演習	
15		排尿障害時の援助２	導尿の実際２　　留置カテーテル法の留意点	演習	
16	試験（1ｈ）				

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト：基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院）
事前準備や受講要件等	自己学習をして授業に臨む。 消化器の解剖生理、消化・吸収の仕組みについて 泌尿器・消化器の解剖生理、排尿・排便のメカニズムについて 各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。 技術シリーズ「経管栄養のポイント」 基礎看護技術「Ｖｏｌ．１排尿・排便の援助」 看護技術シリーズ「Ｖｏｌ．４浣腸・摘便」

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅵ	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	1年次
				時間数	30		9月～

目的：看護の理論的知識を基に問題解決思考を習得する。

目標：1）看護過程の目的・意義を理解する。

2）ヘンダーソン看護理論を用いた看護過程の展開方法を学ぶ。

3）事例をとおして、看護過程の展開ができる。

回数	学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	看護過程の意義	科学的思考プロセスとしての技術 臨床判断能力とは 看護過程の基本	講義	専任教員
2	看護過程の展開１	情報の意義・情報の確認・整理 （常在条件・病理的状態）	講義	
3	看護過程の展開２	一般病態関連図・初期計画	講義	
4	看護過程の展開３	検温計画立案	講義	
5	看護過程の展開４	情報の確認・分類・整理	講義	
6	看護過程の展開５	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈１	講義	
7	看護過程の展開６	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈２	講義	
8	看護過程の展開７	基本的欲求に基づく情報の分析・解釈３	講義	
9	看護過程の展開８	問題の明確化（看護診断）	講義	
10	看護過程の展開９	看護問題の統合・優先順位	講義	
11	看護過程の展開10	全体関連図	講義	
12	看護過程の展開11	事例に応じた援助計画立案	講義	
13	看護過程の展開12	事例に応じた援助計画実施	演習	
14	看護過程の展開13	事例に応じた援助計画実施・評価・修正	講義・演習	
15	まとめ・試験		講義	

評価方法	記録物（看護過程）による評価　60点 筆記試験　40点
参考文献と資料	テキスト：　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ ） ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト（ﾇｰｳﾞｪﾙﾋﾛｶﾜ ） 参考文献： 呼吸器　成人看護学（２）　（医学書院） 臨床検査　（医学書院） 今日の治療薬　（南江堂） 看護過程に沿った対症看護　（学研） 基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社）
事前準備や受講要件等	看護過程：アセスメントに必要となる自己学習をして授業に臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅶ	担当教員	外部講師 日浅　友裕* 専任教員＊	単位数	1	時期	１年次 １２月～
				時間数	30		

目的：対象に必要な診療に伴う技術を習得する。

目標：１）酸素吸入・薬液吸入療法について理解し安全・安楽に援助できる。
２）排痰法の基礎的知識を学び、安全・安楽に技術が実施できる。
３）体温異常時の対応方法を習得する。
４）生体情報のモニタリングの意義と看護の役割を理解する。
５）救急処置の基礎知識と一時救命処置に関する知識と技術を習得する。
６）危篤時、終末期の看護を理解する。

回数		学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	呼吸・循環を整える技術	安楽な呼吸	呼吸の意義とアセスメント 呼吸を楽にする姿勢と呼吸法	講義	専任教員
2		酸素吸入療法 吸入療法 人工呼吸療法	援助の基礎知識 援助の実際	講義	
3		排痰ケア	排痰ケアの基礎知識 排痰ケアの援助の実際 持続吸引（胸腔ドレナージ）	講義	
4		吸引と吸入の実際	吸引・吸入の実際と援助	演習	
5		酸素療法の実際	酸素療法の実際と援助	演習	
6		体温異常時の看護１	１）体温管理・保温の基礎知識 ２）罨法の種類と適応	講義	
7		体温異常時の看護２	温罨法　冷罨法の実際	演習	
8		呼吸・循環を整える援助１	事例を考えた呼吸・循環を整える援助の実際１	演習	
9		呼吸・循環を整える援助２	事例を考えた呼吸・循環を整える援助の実際２	演習	
10	救命・救急処置技術	救命救急処置の基礎知識	１）救急処置の意義と目的 ２）救命蘇生法 ３）止血法 ４）生体情報モニタリングの基礎知識	講義	専任教員
11		救急処置の実際　１	１）心電図検査　２）心電図モニター ３）Spo2モニター	演習	
12		救急処置の実際　２ （１ｈ）	４）止血法の実際	演習	
13		救急処置の実際　３	一時救命処置の実際	講義	外部講師
14	終末期における援助	危篤・終末期の看護１	死の兆候とケア	講義	日浅
15		危篤・終末期の看護２	死亡後のケア・遺族への関わり（グリーフケア）	講義	
16	試験（１ｈ）				専任教員

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～13　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院） 回数14～15　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　（ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社） 基礎看護技術　（医学書院）
事前準備や受講要件等	各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	基礎技術Ⅷ	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	２年次
				時間数	30		４月～

目的：　対象に必要な診療に伴う技術を習得する。

目標：　１）包帯法の基礎的知識を学び、目的に応じた援助方法を実施する。
２）与薬の目的と看護師の役割と法的責任を理解する。
３）安全に与薬を実施するための基礎的知識及び技術を習得する。
４）安全に輸血を実施するための基礎的知識及び方法を理解する。
５）診察・検査における看護師の役割が理解する。

回数		学習課題	内　　容	方　法	担当教員
1	創傷管理技術	創傷処置・包帯法１	創傷処置・包帯法の基礎知識	講義	専任教員
2		創傷処置・包帯法２	創傷処置・包帯法・ドレーン管理	演習	
3	与薬・輸血の技術	与薬１	薬物療法の理解 薬物療法における看護師の役割 薬物療法を受ける患者の援助	講義	専任教員
4		与薬２	経口与薬法 外用薬の皮膚・粘膜適用	講義	
5		注射法について１	注射法とは 注射法における看護師の役割と患者の援助 注射に必要な器具とその取り扱い 各種注射に共通する実施方法 注射による合併症	講義	
6		注射法について２	１）皮下注射　２）皮内注射　３）筋肉内注射	講義	
7		注射法の実際１	注射の援助と方法 １）皮下注射　２）皮内注射　３）筋肉内注射	演習	
8		注射法について３	４）静脈内注射　　５）点滴静脈内注射 ６）輸液ポンプ・シリンジポンプの操作	講義	
9		注射法の実際２	点滴静脈内注射	演習	
10		注射法の実際３	輸液ポンプ・シリンジポンプの取り扱い	演習	
11		輸血療法	輸血療法の基礎知識・方法	講義	
12	症状・生体機能管理技術	診察・検査　１	診察・検査に伴う看護の役割 １）検体検査　　２）体液・組織の検査 ３）生体検査　　４）洗浄	講義	専任教員
13		診察・検査　２（１ｈ）	検査の介助・検体の取り扱い	演習	
14		採血法と注射法の実際１	静脈血採血	演習	
15		採血法と注射法の実際２	簡易血糖検査	演習	
16	試験　（１ｈ）				

評価方法	筆記試験
参考文献と資料	テキスト： 回数1～15　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　(ﾒﾁﾞｶﾙﾌﾚﾝﾄﾞ社) 回数3～10　基礎看護技術　(医学書院) 回数3～4　今日の治療薬　(南江堂) 回数12～13　臨床検査　(医学書院)
事前準備や受講要件等	各演習の前に、動画視聴・技術の自己練習をした上で臨む。

担当教員の＊印は実務経験のある教員

授業科目	臨床看護総論	担当教員	専任教員 ＊	単位数	1	時期	１年次 １２月～
				時間数	30		

目的：対象の状況に応じて、学んだ知識・技術（共通基本技術・生活援助技術）を統合し安全・安楽な看護を提供できる能力を養う。

目標：１）経過別看護の考え方が理解できる。
２）主要症状を基に既習知識を関連付け、活用する方法を身に付ける。
３）事例に合わせて必要な援助を選択し、安全・安楽に基づいて実施できる。

回数	学習課題	内　　容	方　　法	担当教員
1	身体の機能に着目した看護	身体機能の変化に合わせた看護	講義	専任教員
2	病期の経過に応じた患者の看護１	急性期から回復期に至る患者の看護 １）急性期にある患者の看護 ２）回復期にある患者の看護	講義	
3	病期の経過に応じた患者の看護２	慢性期から終末期に至る患者の看護 １）慢性期にある患者の看護 ２）終末期にある患者の看護	講義	
4	治療・処置を受けている患者の看護	安静療法を必要とする患者の看護 １）安静療法の効果 ２）安静療法と二次的障害	講義	
5	主要症状を示す患者の看護２	痛みの種類とメカニズム 痛みを示す患者の観察 痛みを示す患者の看護	講義	専任教員
6	主要症状を示す患者の看護３	脱水の種類とメカニズム 脱水を示す患者の観察 脱水を示す患者の看護	講義	
7	主要症状を示す患者の看護４	浮腫のメカニズム 浮腫を示す患者の観察 浮腫を示す患者の看護	講義	
8	主要症状を示す患者の看護１	ショックの種類とメカニズム ショックを示す患者の観察 ショックを示す患者の看護	講義	
9	事例演習１	事例を通して情報を分析し健康状態を捉える。 必要な看護を導き、対象・症状・経過に応じた方法を選択し援助計画を立案する。	講義	専任教員
10	事例演習２	グループ演習	演習	
11	事例演習３	グループ演習	演習	
12	事例演習４	事例を通して情報を分析し健康状態を捉える。 必要な看護を導き、対象・症状・経過に応じた方法を選択し援助計画を立案する。	演習	
13	事例演習５	グループ演習	演習	
14	事例演習６	グループ演習	演習	
15	まとめと試験			

評価方法	記録物：40点　　筆記試験：60点
参考文献と資料	テキスト： 回数1～15　臨床看護総論　基礎看護学⑤　（メディカ出版） 回数1～15　臨床看護総論　基礎看護学（４）（医学書院） 回数4～14　看護過程に沿った対症看護　（学研） 事例に応じて必要だと思われる教科書
事前準備や受講要件等	

担当教員の＊印は実務経験のある教員